

食包協会報第 185 号 (2025 年 1 月号) ご案内

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはお健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。本年も「食包協会報」を引き続きご愛読いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

この度第 185 号 (2025 年 1 月号) を公開いたしました。今号は弊会の 2024 年の活動内容振り返り、ならびに会員の関心度合いが非常に高い食品用器具・容器包装ポジティブリスト制度に関する計 4 編の記事を掲載しております。

1 つ目の記事では、弊会の石谷孝佑理事長から「2025 年の新年に当たって」と題してご執筆いただきました。今年は食品包装学校、人材育成講座、食品包装シンポジウム、Next Package、食品包装セミナー、食品包装検定、勉強会などの各種イベントや事業のさらなる充実化、食包協会報、ホームページや書籍の出版による情報発信のほか、見学会の再開も検討しております。会員のみなさまにはご支援の程お願ひ申し上げます。また、ご協力いただいております講師の先生方のご助力にも、心から感謝を申し上げます。

2 つめの記事では、「食品用器具・容器包装ポジティブリスト制度について」と題し、一般財団法人化学研究評価機構食品接触材料安全センターの梶原健世氏に、日本の食品用器具・容器包装におけるポジティブリスト制度の概要と課題について解説いただきました。2025 年 5 月 31 日までの制度の経過措置期間が終了すると、合成樹脂以外の材質のポジティブリスト化検討、リサイクル材料の取り扱い、情報伝達の円滑化など、課題は山積みです。法規制につきましては会報にて随時新しい情報を取り上げ、みなさまに提供して参ります。

3 つ目の記事では、第 7 回 Next Package 実行委員長、TOPPAN ホールディングス株式会社の大日方野枝氏に「第 7 回 Next Package2024～人と技術の交流が未来を包む～を振り返って」と題して執筆いただきました。食品会社 10 社、容器包装関連 28 社、大学・研究機関 5 機関が出展し、631 名の最多の来場者数を記録し、食品会社と容器包装関連会社などの交流促進、産官学連携のきっかけ作りの場として好評を博しました。出展者からは、技術的な議論や新たなネットワーク構築、情報収集、製品 PR などの成果が報告されています。

4 つ目の記事では、弊社関西連絡事務所の小林光氏に、「関西連絡事務所の活動」と題して執筆いただきました。関西では 2022 年に連絡事務所を再設立後、西日本の会員企業様 20 社の対面での交流会や勉強会の開催を通じ、活発な意見交換や情報収集の場を提供しています。2024 年に 2 度開催された交流会の報告、そして今後の抱負を語っていただきました。

弊社広報活動委員会では、魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きご愛読のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ではございますが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けいただきました石谷様、梶原様、大日方様、伊尾林様に心から厚く御礼を申し上げます。

2025 年 1 月 10 日
広報活動委員 橋本香奈